

■北海道大も大勝で3連勝。合同チームは連敗。第5節

第48回北海道学生選手権は第5節の9月25日、札幌厚別公園競技場（札幌市厚別区）で1、2部の2試合を行った。全日本大学選手権（甲子園ボウル）の道代表争いも兼ねる1部は、北海道大（前年2位）と北星学園大（同3位）が対戦し、北海道大が91-0で大勝。北海道大は不戦勝を含めて3連勝で、北海学園大と並んで首位に立った。北星学園大は不戦敗を含めて2連敗。2部は、室蘭工業大が42-0で北海道科学大・北海道医療大・札幌学院大・札幌大合同チームに快勝した。室蘭工業大は、第2節の初戦に続き2連勝。

北海道大は第1Q4分にRB工藤輝一（4年、兵庫・白陵高）の56ヤードTDランで先制すると、RB榊琢也（3年、札幌東高）の3ヤードラン、QB茨木大輔（4年、兵庫・六甲学院高）からWR本郷維規（4年、兵庫・市立西宮高）への28ヤードTDパスで加点した。第2QはDB太田陽士（4年、埼玉・浦和高）の55ヤードパントリターンTDに続いて、WR宮崎大地（3年、兵庫・星陵高）が2本のTDキャッチ、WR清水英介（4年、東京・都立西高）もTDパスをキャッチした。



後半も攻撃の手を緩めず、第3Qには2番手QBの山本康介（2年、奈良・奈良学園登美ヶ丘高）がWR神田智史（1年、神奈川・麻布高）へ12ヤードTDパスを投じると、RB高橋諒太郎（1年、神奈川・湘南高）、RB鈴木優

太（4年、東京・桐朋高）もTDランで続いた。第4Qも、RB榊の2本目のTDラン、QB山本からWR神田への2本目のホットラインパス、RB鈴木の2本目のTDランで加点した。

北星学園大は第1Q、自陣35ヤードからの最初の攻撃シリーズでQB中手龍一（3年、札幌静修高）からWR小坂峻祐（4年、北星学園大付属高）へのパスとRB箕浦空哉（2年、帯広緑陽高）のランで北海道大陣まで攻め込んだが、エンドゾーンまでは届かなかった。後半は、15人で攻守を兼任する選手たちに疲労から故障が相次ぎ、反撃の糸口をつかめなかった。

北海道大の西尾慎太郎ヘッドコーチは「圧勝しなきゃいけない試合だった。選手たちはよく対処してくれた」と及第点を与えたうえで「北海道での勝利と、その先を見据えて準備したい」と気を引き締めていた。一方、北星学園大の池田伊織ヘッドコーチは「最初のオフェンスはいい感じでいけたが、ディフェンスで止められなかった。この点差を強い刺激にして、次の試合に臨みたい」と話した。



室蘭工業大－合同チーム戦は0－0で迎えた第3Q、室蘭工業大がRB友田悠斗（1年、岡山・玉島高）の21ヤードTDランで先制し、Kも兼ねるOL/DL船木翔斗（2年、札幌清田高）の38ヤードFGで加点。第4QにはRB北村朋也（3年、釧路北陽高）のダイブ、OL/DL穴戸蓮旺（3年、札幌日大高）のファンブルリターンTD、RB冨樫司（2年、札幌清田高）の45ヤードランTDとインターセプトリターンTD、LBも兼務するRB友田のイ



ンターセプトリターンTDでリードを広げた。合同チームは北海道科学大RB中嶋陽涼（4年、市立函館高）と札幌大RB小金龍東（4年、恵庭北高）の力走と札幌学院大WR芝辻俊希（2年、神奈川・星槎国際湘南高）、北海道医療大のWR板東晃太（2年、神奈川・桐光学園高）の好捕などで応戦したが、及ばなかった。



室蘭工業大の半沢伸太郎監督は「大量得点できたことを自信に、入れ替え戦に臨みたい」と収穫を強調し、1年生ながら大活躍のR B友田は「TDランはみんなが道を開けてくれた。インターセプトは狙っていた」と喜んでいた。一方合同チームのR B中嶋（北海道科学大）は「試合ができて幸せな時間だった」、R B小金（札幌大）も「みんなで試合ができて楽しかった」と満足げだった。